

成績を上げるために必要なのは、テスト対策だけではない。生徒の努力を見つけ、保護者と共有し、次の行動につなげる。その地道な積み重ねを支える仕組みとして、鷗州塾ではFLENS社の「FLENS School Manager」の活用が進んでいる。成績管理、懇談予約、アンケート、そして「褒める」メッセージ。現場では何が変わったのか。導入後の活用を知る鷗州塾を運営する株式会社AICエデュケーション 学習塾事業本部 小中学部部長の池下幸節氏に聞いた。



池下幸節氏

成績管理を「集める」から「活かす」へ 「FLENS School Manager」が変えた、 塾と家庭のコミュニケーション

正確なデータが「ほぼ100%」集まるようになった

——成績管理を「FLENS School Manager (FSM)」上で行う前は、どのように管理していたのでしょうか。

10年以上前に現場にいた頃は、成績管理シートへ生徒に記入してもらい、それをデータベースに手入力をしていました。問題点としては、生徒が忘れたりすると次の授業日に記入してもらったりと成績収集には時間がかかっていました。また、記入や入力でミスをしている可能性も少なくなかったため、評価に使うには難しかったんです。まずは100%素早く集めること、しかも正しい数字で集めることが必要でした。今はFSMで、生徒本人が家からでも報告できるの

で、素早く正確な情報がほぼ100%集められています。

——データの漏れが減り、網羅できるようになったわけですね。

そうですね。以前より網羅しやすくなりましたし、実際に網羅できていると思います。特に通知表の点数は入試にも関わるので、まずそこから整えていきました。定期テストも含めて、ゆくゆくは生徒が自分から全部報告してくれる体制にしたいですね。

——現場への浸透には時間がかかりましたか。

難しかったです。昨年度は、ミーティングのたびに校舎ごとの回収率を集計して見ても良かったです。みんなができていないのに自分の校舎だけできていない、ということが数字

で見えるようにしたんです。それを毎月続けて、ようやくほぼ全体に浸透しました。

——先生方は、最初から価値を感じていたのでしょうか。

過渡期だったので、半分くらいは「今までの方がやりやすい」と感じていたと思います。ただ、正確さは全然違います。生徒の記憶だけだと曖昧なこともありましたが、画像を見ながら入力してもらえます。曖昧な数字では評価に使いづらかったので、そこは大きな変化です。

懇談予約とアンケートで、紙と電話の負担が減る

——成績管理以外で、FSMの活用によって変化を感じた機能はありますか。

懇談予約は本当に楽にな

りました。昔はすべて紙で案内を配り、電話で日程を調整していました。今は、こちらが懇談枠を設定すると、保護者が都合のよい時間を選べます。管理簿には自動で反映され、重複もありません。

——懇談に来てもらえる率にも影響していますか。

あると思います。昔は電話がつながるまで予約が取れませんでした。今は保護者が自分のタイミングで選べるので、参加してもらいやすくなったと思います。

——電話以外の連絡手段が増えたことも大きいですね。

圧倒的に連絡は取りやすくなりました。今は保護者の方も働いていて忙しい。昼に電話しても出られないことは塾では当たり前です。で

もアプリなら、こちらが時間を問わずメッセージを送れますし、保護者も都合のよい

ときに確認できます。私たちがいない時間でも返信をもらえるので、安心感にもつな

がっていると思います。

——アンケート機能はどう使っていますか。

イベントを行った後の満足度調査など、思いついたら取っています。昔なら企画して、印刷して、配って、回収して、集計する必要がありました。週に一回しか会わないクラスもあるので、紙だと時間がかかります。今は回収も集計もしやすくなりました。

——保護者の反応はいかがですか。

とても喜んでもらっています。「よく見てもらっている」と感じてもらえると思います。塾は口コミが大きいので、面倒見がいいかどうかは、こういう日々のコミュニケーションから判断されるのではないのでしょうか。同じ指導をしていますが、それが家庭に伝わるかどうかで印象は変わります。

——生徒のモチベーションにも影響しますか。

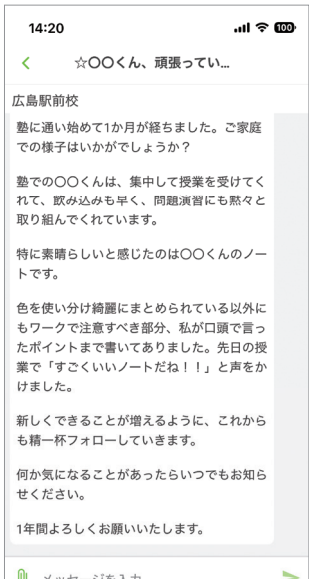
あると思います。生徒本人に直接言うだけでなく、保護者を介して褒めることで、先生との距離も縮まります。成績を上げるには時間がかかるので、モチベーションを保つことが大切です。その小さな積み重ねを、FSMで習慣化

——今後、さらに活用したいことはありますか。

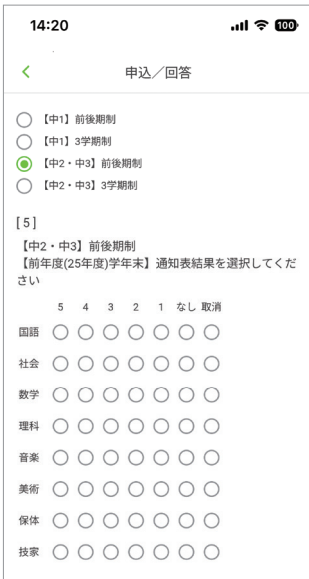
クラスや担当ごとに生徒を見やすくできると、もっと密な活動ができると思います。大きい校舎では、自分と関係のない生徒も一覧に並ぶので、タグ付けのような仕組みで担当生徒だけ見られると、質はさらに上がるのではないのでしょうか。また、褒める活動のメッセージから「楽しい」「わかりやすい」といった言葉を集計できれば、校舎運営の状態も見えてくると思います。

——最後に、導入を迷っている塾に伝えたいことは。

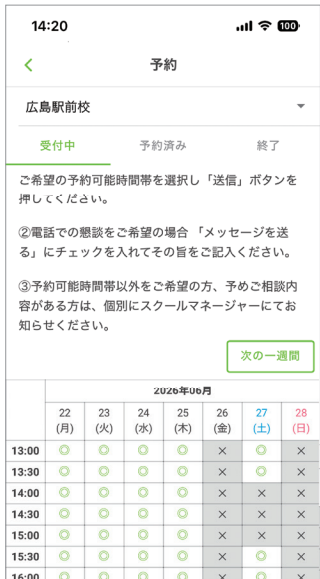
業務時間は削減しやすいですし、何より連絡が取りやすくなります。保護者の生活時間が多様になっているなかで、時間を問わずメッセージを送れることは、塾にとって保護者にとっても大きな安心につながると思います。



保護者への「褒める活動」メッセージの例



生徒個人の成績入力画面



スマートフォンによる懇談予約画面のイメージ